

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700103		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	岐阜県恵那市長島町中野1228番地の361		
自己評価作成日	令和4年9月4日	評価結果市町村受理日	令和5年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171700103-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171700103-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者は、介護職の経験があり、グループホームへの思いは深く、利用者が楽しく喜んで頂ける事に情熱をこめており、職員も情熱を込めてケアに当たっています。  
 設立当初から大切にしている「花あり、歌あり、笑いあり」をキャッチフレーズに、職員全員明るく楽しく利用者に接しています。  
 利用者はより家庭に近い環境の中で、施設内行事を通して利用者同士交流したり、窓から見える景色やドライブ等で、季節を感じながら安心して穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍により、時間短縮、1人訪問で訪問調査を実施した】  
 楽しく共同生活を送れるように、心も体も豊かにお互いが支え合いながら、理念にある「共豊」を実践している。上手く話ができなくても笑顔になれるレクリエーション活動で、利用者と職員が一体となって楽しめるものを考えたり、避難訓練で外に出たついでに花火を楽しんだり、コロナ禍によって変わってしまった日常生活の中で楽しめることを増やしている。  
 家族には利用者の様子を細かく伝えることで、離れて暮らしていても安心してもらえるように努めている。1ユニットで小規模という利点を活かし、職員間では密に利用者の状況を共有して、利用者の思いを1つでも多く叶えられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「共豊」である。職員は、その理念を共有しその人らしい生活の実現の為、実践につなげられるよう心掛けている。	心も体も豊かに、「お互いさま」の気持ちで、みんなで楽しむ支援に努めている。職員は、理念を言葉で理解するだけでなく、生活の場であることを意識して行動し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事、草刈りに参加している。防災訓練、自治会親睦会など今年は、すべて中止となってしまいました。	自治会行事の自粛が続いている中でも、地域の草刈りに職員が参加したり、野菜の差し入れがあったりと、可能な限りの地域との繋がりは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、認知症キャラバンメイトの講座や研修に出席し学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの積極的な意見、改善点を聞き入れ、可能な事柄であれば実行している。今年は、会議開催が難しく意見等あれば活かしていく。	現在は運営推進会議を書面開催で行っており、ホームの状況報告や、運営等に関して質問があったことに回答している。家族からは、面会時に運営に関する意見を聞く機会を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡文書や手続き等で行政に訪問し連携する関係を築いている。 従来は、介護相談員の訪問を受け入れ、職員、利用者を交えた話し合いを設け、行政とホームが協力して利用者を支援している。	各種の書類提出時に、市の担当者と状況報告を兼ねて話をしている。介護支援専門員が高齢福祉課や地域包括支援センターと連携しており、職員とも情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束の弊害について理解しており止むを得ない状況を除き、身体拘束をしないケアの理解と実践について、職員で話し合い1人1人の利用者が抱えている不安や混乱等の要因を取り除くケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催している。毎月の職員ミーティングでも、身体拘束に関して話し合う機会を設け、何かあれば対応を検討し、職員全員が共通認識を持つようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演会等の研修会があれば、積極的に参加している。職員1人1人が認識を持ちながら行動するよう職員会議等をもって定着、防止するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会等の研修会があれば、積極的に参加している。必要性は、関係者で話し合いをし、必要とする人には、活用できるよう支援する。成年後見人制度を必要とされている家族には最大限の協力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問点は、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関には意見箱、苦情受付のポスターなどを貼り、いつでも聞き入れることが出来るようにオープンにしている。意見等があれば運営に反映させる。	家族とは気軽に話をできる関係性を築いている。面会時や電話等で出された意見は、「申し送りノート」やミーティングで共有し、職員ごとに対応が異ならないように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案の反映は、行われている。	毎月行うミーティングには全員が参加しており、自由に意見交換できる場となっている。気になることがあればその都度話し合い、課題を先送りしないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の把握や職員との個人面談等も行い理解している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、情報共有、資格指導、助言等は、管理者が対応し職員も自発的に勉強している。研修部会を立ち上げ定期的に研修を行いレベルアップを図り、個人の器量も見極め適切な指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の実践ケア発表会に出席したり、介護相談員の説明会、研修等に参加している。めぐみ介護サービス内での交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけに面談を行いきるだけ話をして頂けるようにしている。(自室等、話しやすい場所で)常に声掛け等しながら安心するよう配慮している。本人らしい生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要等があつて家族に電話をした際、話を受け止めるよう努力している。(話しやすい雰囲気を作っている)なにか疑問があれば電話等でも積極的に話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリー・健康診断書等により、必要と思われる支援等を示し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩である利用者に敬意を持ち接している。また、昔の話を聞くなどし、学び支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化も電話連絡し、また、来所持には、話などをするようにし、よりよい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重して、なるべく実現(面会の約束)出来るように馴染みの人との関係が続くよう声掛け等にて、つないでいく努力をしている。	コロナ禍により、馴染みの関係の継続が難しい中ではあるが、利用者が中心となって五平餅などの郷土料理を作り、馴染みの味を楽しんでいる。知人や親戚と、年賀状のやり取りを継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等、一緒の時間を共有でき、お互いがコミュニケーションがとれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方が必要とする限り相談や支援に努めている。利用が終了した場合は、家族と共に次の暮らしの確保に積極的に協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を大切に出来る限り、希望や意見に沿えるよう努めている。朝礼や介護記録等により職員間で情報を共有している。	利用者との会話を大切にしており、日常生活の中で出た思いや意向を汲み取り、その実現に向けて支援している。意向の表出が難しい利用者でも、表情やしぐさ、行動などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やその後も(外泊した際)馴染みの物を持って来て頂くようにしている。家族からも情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員日誌・介護記録・業務終了日誌・バイタルチェック表・夜間日誌・食事水分摂取表・排泄表を元に職員全員が現状を把握するように努めている。また、それを計画書に反映するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、意見、アイデアを出して、それを元にその人らしい介護計画書を作成している。	モニタリングは職員全員で行い、大きく状態が変わった時にも話し合いを行っている。家族からの希望を介護計画に取り入れたり、過去に実践した支援を取り入れたり、より良い支援に繋がるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員日誌・介護記録・業務終了日誌・バイタルチェック表・夜間日誌・食事水分摂取表・排泄表等個別に記録、記入、申し送りノート活用で、情報を共有し実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人のニーズに対して直ぐに対応できる柔軟性をもって臨機応変に支援して行けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で最近は無いが、本人の希望や必要に応じて、地域イベントを見学、参加等の支援をしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を受けている。往診時かかりつけ医に相談を行っている。また、臨時の受診も受けられるよう支援している。結果や状況等必要に応じ、家族に連絡している。	協力医を入居前から主治医にしている利用者が多く、引き続き訪問診療等で適切な医療が受けられる体制を整えている。通院受診に職員が対応した場合には、家族に状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化していく体調管理の情報や気づきを職員間で共有し協力医療機関や看護師への相談を経て、主治医の受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、家族と話し合い、入院期間中は職員が面会し、洗濯物を預かり必要物品を補充するなどして、かわりが途絶えないようにしている。代表者、管理者と職員が医療機関と連携を図っていく。退院は医師の指示で決定する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、重度化や終末期は病院での医療を受けるに至っている。しかしながら、終末期に至るまでのホームの支援を受けられるのが現状である。家族には、その旨を入居時に説明し理解に至っている。	看取りを行っていないため、入居時に対応できること、できないことを説明している。食事が取れなくなったり、医療行為が必要になったりした時には、主治医と家族も交えて話し合い、利用者にとってより良い環境への移行ができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつどんな時でも急変や事故発生に備えてすべての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。(AEDの設置、説明)結果、ミーティングにおいて全職員にAEDについて説明し、各自がAEDを実際に作動し訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に備えて、定期的に避難消防訓練やマニュアルによる講習を行っている。災害対策本部を設置し備蓄等にも力を入れ緊急時に備えている。	火災や地震を想定した避難訓練を実施している。ハザードマップ上では災害警戒無指定地域であるが、想定外の事態も起きうることもあると考え、利用者も全員、実際に参加して訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、着替え、排泄時には特に気を付けている。電話の取次ぎ、FAX受信後もプライバシーの侵害のないように対応している。	トイレ誘導の際などの声かけには特に注意を払っている。衣服選びなどでは、個々のこだわりにも配慮し、利用者を尊重した対応をしている。居室に入る時も利用者の家だと捉え、必ずノックして許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも自由に本人が思いや希望を表したり、自己決定をできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の状況を把握しながら、1人1人のペースを大切に優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人が気に入った(馴染みのある)理容・美容院を選んで望む店に行けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に好物のアンケートを取り、献立作りに役立てている。誕生日には、好物を召し上がって頂いている。その人の能力に合わせて、準備や後片付けをしている。また、会話を楽しみながら食事を楽しんでいる。	3食とも職員が手作りしており、利用者は下ごしらえや食器洗いなど、できる範囲で関わっている。敷地内の畑で育てた野菜を食事に取り入れ、感想を言い合いながら味わっている。	外食できない代わりに、利用者のリクエストも取り入れながら、食事レクリエーションなどで、非日常の食の刺激を味わってもらうような工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病等で、食事制限が必要であれば量などを調整するなどし1人1人の状態を観察し、声掛けを工夫しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(歯磨き、うがい、義歯のケア等)を行うようにしている。自分で出来ない場合は、1人1人に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	脳に刺激が増すように、少しでも運動してもらえるように声掛けをしている。排泄用品は、身体状況に合わせてその都度対応している。また、排泄リズムを知る為にチェック表を使用している。	トイレでの排泄が継続できるよう、声掛けのタイミングを見計らって誘導している。職員間で利用者の状態を共有し、適切な排泄用品を使用するよう都度検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で食物繊維は、豊富に摂取している。1日に適度な運動を行うように声掛け等により促したり、主治医に相談したり個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望を考慮しながら気持ちよく入浴が出来るように支援している。入浴剤を使用し、香り等も楽しんで頂いている。	個室と機械浴があり、利用者の状態に合わせて使い分けている。拒否がある時には時間をずらしたり、日にちを代えて無理強くないようにしている。好みのシャンプーを使い、入浴を楽しんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、昼寝等で休息している。夜間の睡眠パターンは、適度な照明や寝具等で安心して、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変化は、直ぐに気付けるようにしている。(血圧の変動・不穏等)通じ薬等は、排泄リズムをみて調節している。何人もの職員で投薬に至るまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にあつた役割や家事等、楽しみごと等を考えている。その人にあつた趣味を生かして楽しんでもらえるよう工夫している。やってみたい事を聞き、可能であれば実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら買い物の同行、近隣への散歩、季節のドライブや行事参加、果物の収穫や花の手入れ等をしている。	みんな揃って外出することを自粛しているが、家族との外出は制限していない。敷地が広く、天気の良い日は外の景色を眺めて四季の移り変わりを感じたり、庭の草むしりを職員と一緒にすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族がお金の管理をしてみえる以上は、G・Hとして管理の限界がありますが、管理能力のある利用者は所持してもらっている。(外出時の食事代等)金銭については、入居時家族と話し合いがされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく自由に手紙や電話のやり取りをして頂いている。 家族、相手への配慮も必要とされるため加減等の声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは2か所にあり居室から遠くならないようになっている。食堂や廊下に季節の花を飾り、心が和むようにしている。	季節ごとに、利用者と職員が共同制作したものをリビングに飾っている。リビングの窓からは庭が見渡せ、四季を感じられるようになっている。共有空間は毎朝職員が中心となって掃除しており、利用者はモップかけなどを一緒にやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間における独りの居場所は、構造上困難であるが、居間等居心地の良い場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を使用している。レクリエーションで手作りした物が自室や居間に飾られている。	利用者の居室入り口は玄関扉のような造りになっており、自分の家のように過ごしてもらいたいという思いが込められている。それぞれに好みの家具などを置き、過ごしやすい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のわかる力をなるべく生かして利用者に対する言葉かけには十分注意している。建物内部はバリアフリーになっており、廊下には手摺も設置されている。部屋の入口には、表札がかかっており、安心して自立した生活が送れるよう工夫している。		